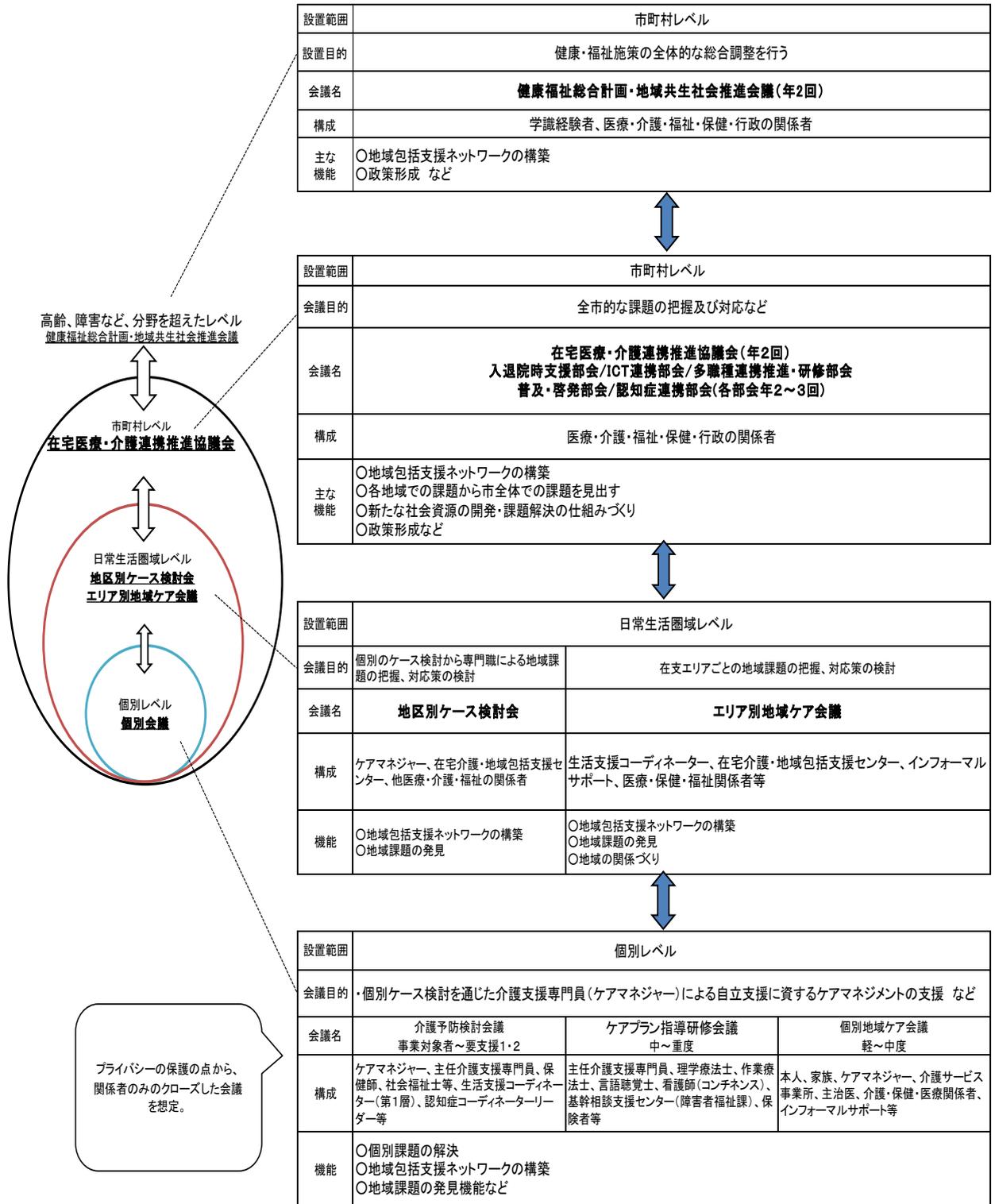


令和6年度上半期基幹型及び在宅介護・地域包括支援センター業務報告

地域ケア会議推進事業

(1) 武蔵野市における地域ケア会議の体系図



(2) 地域ケア会議の開催

① ゆとりえ在宅介護・地域包括支援センター

エリア別地域ケア会議 第1回

(ゆとりえ在宅介護・地域包括支援センター)

開催日時	令和6年9月27日(金) 10:30~11:30										
会場	御殿山コミュニティセンター けやき										
テーマ	地域のささえあい、私たちにできること ～災害に強い地域づくり、いざという時に必要なこと 『災害時用トイレの話』～										
機能	<input type="checkbox"/> 個別課題解決 <input checked="" type="checkbox"/> ネットワーク形成 <input checked="" type="checkbox"/> 地域課題発見 <input checked="" type="checkbox"/> 地域づくり・資源開発 <input type="checkbox"/> 政策の形成										
参加者	本人	家族	民生児童委員	ケアマネジャー -	介護事業者	医療関係者	行政	その他 (地域住民)	在宅介護・地域包括	基幹型 地域包括	合計
参加に○			○	○	○	○		○	○		25
人数			2	3	2	2		10	6		
事例概要	地域住民同士のつながりを推進していくために、関心の高い「災害対策」をテーマにして話し合いを勧めていくことを計画する。今回は『災害時用トイレの話』を取り上げる。 ① 災害時における対応や役割について各専門職より説明(医師、薬剤師、福祉の会、町会) ② 災害用トイレの組み立て体験、オムツ体験 ③ それぞれの役割を知った上で、災害時に備えてできることについてグループワーク										
エリアの課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域活動が少なく参加者が固定されている。そのため、つながりを作る機会が少なくなっている。</li> <li>・災害時、地域の関係機関や専門職の役割を確認する必要がある。</li> <li>・在宅介護・地域包括支援センターが地域の高齢者の総合相談の窓口である情報が周知されていない。吉祥寺東町や吉祥寺南町と比較して、御殿山1丁目は相談につながった時点で早急な対応が必要なケースが多い。</li> </ul>										
検討結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域全体が関心の高い「災害」をテーマにイベントを開催し、地域活動の発展や多世代とのつながりを図っていききたい。また、単発ではなくシリーズ化することでイベントの定着を図る。次回は「災害食」や「防災リュックに準備するもの」を取り上げる。</li> <li>・地域にある福祉関係事業所や専門職の役割を理解し、災害発生時の対応が迅速かつ円滑にできるように平時から備える。</li> <li>・定期的にイベントを開催することで、活動を通して在支・包括が担う役割を周知する。</li> </ul>										
事例から見えた地域の課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域活動の再開をきっかけに顔の見える関係、災害に強い地域づくりをテーマに定期的な働きかけを行っていく必要がある。</li> </ul>										
地域ケア会議後の状況	状況確認 令和7年3月予定										

開催日時	令和6年7月19日(金) 14:00~15:30										
会場	自宅										
テーマ	認知症のある高齢者が住み慣れた自宅で生活するための支援体制づくり										
機能	<input checked="" type="checkbox"/> 個別課題解決 <input checked="" type="checkbox"/> ネットワーク形成 <input checked="" type="checkbox"/> 地域課題発見 <input type="checkbox"/> 地域づくり・資源開発 <input type="checkbox"/> 政策の形成										
参加者	本人	家族 ・親族	民生児 童委員	ケアマネジャ ー	介護事 業者	医療関 係者	行政	その他	在宅介 護・地 域包括	基幹型 地域包 括	合計
参加に○	○	○		○	○			○	○		10
人数	1	2		1	2			3	1		
事例概要	独居、自宅で日本舞踊の教室を開いていたが新型コロナが流行し教室を閉めることになる。その後、徐々に短期記憶を中心とした認知機能の低下が顕著になってきた。遠方に住む妹や近隣の商店の店員が、本人の繰り返す同じ話を傾聴したり、買物の支援をしたりしていた。介護保険認定申請をするが、医療機関へ受診ができていない、内服薬は自己判断でやめてしまうなど医療の関与がない状況であった。この状況を解決するために、医療・介護の連携が必要であったので認知症初期集中支援事業の対象者として、チーム支援を行った。										
事例の課題	① 短期記憶低下が顕著になり、買物や金銭管理等をはじめIADLで出来ないことが増えてきている。 ② レビー小体型認知症で夜間を中心に幻視・幻聴症状がみられた。そのため本人は不安が強く、行きなれた近隣の商店に相談に行くことが多い。										
検討結果	① ・認知症専門医療機関への受診を行う。 ・本人は「食べ物がない」と近隣の商店に訴えることがあるので、食事サービスを利用し、食事を確保できる体制を作る。 ・ヘルパーとの金銭のやり取りはICカードを使用。キーボックスに入れて管理する。 ・短期記憶の低下や幻聴幻視が強くあり、自宅での独居生活は次第に困難になっている。在宅でのひとり暮らしの限界が予想されるので、妹は有料老人ホームの入所について見学を進めていく。 ② ・近隣商店はこれまで通り本人の見守りや声かけを行い、本人の困りごとがあれば在宅介護・地域包括支援センター（以下「在支・包括」とする）に報告する。在支・包括から家族、任意後見人などの関係者にその情報を共有する。										
事例から見た地域の課題	・近隣は店舗が密集している場所で地域住民との交流が少ない。										
地域ケア	状況確認 令和6年9月										
会議後の状況	専門医療機関に受診して認知症の確定診断を受け、その後介護保険サービスと地域の方々と見守り支援体制をつくり対応した。令和6年9月有料老人ホーム入所となった。										

②吉祥寺本町在宅介護・地域包括支援センター

エリア別地域ケア会議 第1回

(吉祥寺本町在宅介護・地域包括支援センター)

開催日時	令和6年5月24日(金) 16:00~17:00										
会場	公益社吉祥寺会館 4F 多目的ホール										
テーマ	「地域課題を共有して地域がつながるアクションを考える」										
機能	□個別課題解決 ■ネットワーク形成 ■地域課題発見 ■地域づくり・資源開発 □政策の形成										
参加者	本人	家族・親族	民生児童委員	ケアマネジャー	介護事業者	医療関係者	行政	その他	在宅介護・地域包括	基幹型地域包括	合計
参加に○			○	○		○	○	○	○	○	33
人数			7	3		3	3	11	5	1	
概要	<p>参加者を5グループの班に分けて、KJ法によるグループワークを2つのテーマに沿って実施した</p> <p>1. 昨年度における各地域活動の、共通する残された課題を抽出する</p> <p>2. 抽出した共通課題の解決に向けて実行可能なアクションを考える</p>										
エリアの課題	<p>上記グループワークにより抽出された課題</p> <p>1. ①コロナウィルス感染症の影響により参加者減 ②活動の担い手不足・担い手の高齢化・地域への関心不足 ③場所の確保が困難・多世代交流の場がない ④他団体との連携不足</p> <p>上記グループワークにより提案されたアクション</p> <p>2. ①情報の共有 → ICTを使用した繋がりを構築する(LINE・X・ZOOMなど) SNSなどの活用方法の勉強会 ②企画内容の充実 → 地域の担い手になり得る年代(60歳代)の関心事は何か 活動が楽しそうに見えることは大切、口コミが期待できる ③場所の確保 → 地元企業を巻き込む(横河電機・松屋・すかいらくなど) 住民目線の社会資源のMAP化(可視化)をして情報の浸透を図る 場所と担い手のマッチングを容易くできるようにする ④他団体と知り合う機会作り</p>										
検討結果	<p>I. 障害や認知症のある方、高齢者やその家族など多世代が共に集える参加型のイベント企画</p> <p>II. 「吉祥寺本町・御殿山NETWORK」を定期的に企画、参加団体の拡大を図り、情報交換を行う</p> <p>III. 地域向けの情報発信を在宅介護・地域包括支援センター(以下「在支・包括」とする)が中心になって開始する</p>										
事例から見た地域の課題	<p>I. 地域住民の興味や関心事のリサーチ方法</p> <p>II. 参加団体の拡充、民間企業の発掘</p> <p>III. オンラインに参加できるまでの地域住民のスキルの向上</p>										

地域ケア会議後の状況	状況確認 令和6年11月 ・「吉祥寺本町・御殿山NETWORK」を隔月でオンライン開催している。参加団体の方々から、各団体での取組や実施報告を行い、情報交換が行われている。 ・地域向けの情報発信としてはエリア別地域ケア会議開催後から、在支・包括がLINEを活用して地域のイベント案内を開始した。
------------	---

開催日時	令和6年8月23日(金) 17:30~18:30										
会場	吉祥寺本町在宅介護支援センター										
テーマ	地域で生活を継続していくために、今自身ができることを考える										
機能	■個別課題解決 ■ネットワーク形成 ■地域課題発見 □地域づくり・資源開発 □政策の形成										
参加者	本人	家族 ・親族	民生児童 委員	ケアマネジャー	介護事業 者	医療関係 者	行政	その他	在宅介 護・地域 包括	基幹型 地域包 括	合計
参加に○	○	○	○			○		○	○		9
人数	1	1	1			1		2	3		
事例概要	80歳代後半の女性、独居。夫婦共に理系大学を卒業し、結婚後も研究所で就労していた。2人の子供を儲けて専業主婦となる。2人の息子に恵まれたが、長男は数年前に他界し夫はH18にパーキンソン病と診断され以降介護中心の生活になった。夫の病気の進行に伴い、吸引等在宅で医療的なケアを要する介護が始まりおよそ18年間介護を行った。夫の介護をしていた頃は、吸引があるため短時間の外出もままならない生活だったが、昨年末に夫が他界して独居となった。持病に、メニエール病・変形性膝関節症・胆石炎がある。										
事例の 課題	① 夫のことを最優先の生活で、自身の具体的なACPIについては考えてこなかった。 ② 18年間のブランクを経て、再び地域とのつながるためのきっかけ作りをする。 ③ 本人らしい生活を継続するために活用できる社会資源にはどのようなものがあるか。										
検討結果	① 在宅介護・地域包括支援センターがエンディング事業への参加や促しを行う。 ② 自身の介護の経験談や具体的なアドバイスを行う機会を設け、介護経験者という立場の役割を持ち地域で活動ができるよう周囲関係者が促してみる。 ③ ICTを活用した繋がりや、オンラインを使った催しへの参加を働きかけてみる。										
事例から 見えた地 域の課題	① エンディングノートの普及・促進がなかなか進まない。 ② 家族介護事業における参加者が求めている内容や企画の把握を行い実施してみる。 ③ 高齢者のICTに対する苦手意識を克服できる方法を考える。 ④ 社会資源の周知を図れるように、見える化の工夫(マップ等の作成・更新)を行う。										
地域ケア 会議後の 状況	状況確認 令和7年2月頃										

③ 高齢者総合センター在宅介護・地域包括支援センター

エリア別地域ケア会議 第1回

(高齢者総合センター在宅介護・地域包括支援センター)

開催日時	令和6年9月18日(水) 10:00 ~ 11:30										
会場	西久保コミュニティセンター										
テーマ	確認しよう!!あなたの街の応援団 										
機能	□個別課題解決 ■ネットワーク形成 ■地域課題発見 ■地域づくり・資源開発 □政策の形成										
参加者	本人	家族 ・親族	民生児童 委員	ケアマネジャー	介護事業 者	医療関係 者	行政	その他	在宅介 護・地域 包括	基幹型 地域包 括	合計
参加に○	○		○	○				○	○		26
人数	12		3	1				6	4		
事例概要	<p>令和6年度、在宅介護・地域包括支援センター（以下「在支・包括」とする）では、西久保2丁目住人（見守り安心ネットワーク参加者多数）向けに「老い支度講座3回シリーズ」を開催した。その中で挙げられた共通課題について、具体的な対応策を地域ケア会議で話し合う。</p> <p>令和6年度 老い支度講座の内容は以下の通り。</p> <p>-西久保2丁目限定 老い支度講座「華麗なる君へ」開催主旨-</p> <p>親族に頼らない又は頼れない時代。元気なうちは一人でもなんとかできるが、健康や経済状態でさまざまな悩みが出てくる。在宅介護・地域包括支援センターは65歳以上の相談窓口で高齢者の方々が生活に支障をきたす前に、関わるきっかけを作りたい。また、同じ西久保2丁目の住民同士が積極的にお互いの事を知り合い、お互いに気かけあう関係を作ることを推進する。</p> <p>〈第1回〉R6.6.12(水)グループワーク：元気で華麗に過ごしているあなたでも『○○○になったらどうしよう』『○○○』を考えてみましょう。</p> <p>〈第2回〉R6.7.3(水) 講義1「急病になったらどうしよう」 講義2「認知症になったらどうしよう」</p> <p>〈第3回〉R6.8.7(水)講義3「自宅に住み続けられなくなったらどうしよう」講義4「災害が起きたらどうしよう」</p>										
エリアの課題	<p>&lt;老い支度講座受講者共通課題&gt;</p> <p>○老後の生活に漠然とした不安を持っている。（老々世帯、独居、親族機能に期待しない）</p> <p>上記、各回テーマに挙げられた課題解決に向けて具体的な支援策を掲げる。</p> <p>① 参加者同士が顔見知りになり、万が一の時に声を掛け合える関係づくりをする。</p> <p>西久保2丁目の地図を見ながら、クイズ形式で特に災害時や緊急時に役立つような地域の社会資源をグループワークで確認し、情報共有する。</p>										
検討結果	<p>クイズ形式のグループワークを行うことでグループの空気が和んだ。また、身近に迫っている災害の話で誰もが我が事となり、積極的で活発な意見が聞かれた。</p> <p>&lt;地図クイズに関する感想&gt;</p> <p>・買い物に困らない立地。（昔は三谷通りも城山通りにももっと商店があった）</p>										

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公園に公衆トイレがない。</li> <li>・消火器が多いことはわかったが、使い方が分からない。</li> <li>・実際に見て歩きたい。</li> </ul> <p>&lt;その他・地域の情報&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・防災会、老人会、五小おやじの会、福祉の会、様々な団体がそれぞれに防災の話をしているが全体で防災訓練を行う機会がない。</li> <li>・避難所となっている五小の建て替えが令和7年度からあるため、最寄りの避難所が五中になってしまう。</li> <li>・三鷹通りの野菜売り場の裏に井戸があるような話を聞いたことがある。</li> </ul> <p>&lt;アンケートから参加者の声を原文のまま抜粋&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地図クイズ「目指せ！西久保2丁目マスター！」公衆電話や災害救助ベンダーの情報は緊急時や災害が起きた時は重要と思いました。</li> <li>・西久保2丁目のことにまだ分からない知らない身にとって、今回の地図やクイズを通して防災の品々がどこにあるのか等、とても興味深く学ぶ事が出来ました。地域のお世話をして下さいの方や高齢者総合センターの方々の協力体制など心強い思いをして帰ってきました。参加させていただきありがとうございました。</li> <li>・自宅の近くに高齢者のための物的資源や人的資源が存在することを知りうれしく心強く思います。西久保2丁目の住人でよかったと心から思います。AEDや消火器も自宅近くにあるので、いざという時に使えるようでありたいと思います。講座のスタッフのみなさまに深く感謝します！</li> <li>・55年西久保に御世話になってまだまだ知らない事ばかり。地図クイズでは平日気にもしていませんでした。毎日何も考えず見る事もなく町を歩いていました。有難う御座いました。</li> </ul>
事例から 見えた地 域の課題	<p>古い支度講座の共通課題（住民が不安に思っていること）は昨年度、緑町UR住宅を対象とした講座で挙げられた不安ごとと同様であり、高齢者の共通課題であることが改めて分かった。</p> <p>エリア会議では、地域の繋がり的重要性を我がこととして捉えやすい「防災」をテーマに行った。西久保2丁目は駅も近く商店街も身近にあり、誰もが過ごしやすい恵まれた立地である。しかし防災については様々な団体が話し合いを行っているものの、合同の話し合いや訓練が行われていないという現状を確認できた。今後は、イベントなどを通してさらに住宅同士の関係性を深め合い、防災のみならず、防犯にもつながる地域の見守り合いを推進していきたい。</p>
地域ケア 会議後の 状況	<p>今回の古い支度講座の参加者の多くが加入している「西久保2丁目安心見守りネットワーク」では、毎月1回（最終月曜日）開催し、駐在所の警察官や、市議、市民社協、在支・包括職員の参加があり、最新の地域情報の交換が行われている。今回の古い支度講座を機会に見守りネットワークに新規加入される方もいた。一人でも多くの住民がネットワークに参加することで、見守り合える目を増やしていきたい。</p> <p>参加者の個別の課題については、引き続き個別ケア会議で検討する。</p>

④ 吉祥寺ナーシングホーム在宅介護・地域包括支援センター

エリア別地域ケア会議 第1回

(吉祥寺ナーシングホーム在宅介護・地域包括支援センター)

開催日時	令和6年7月24日(水) 10:00~11:30										
会場	武蔵野市立中央図書館 会議室										
テーマ	「令和6年度 地域で行うフレイル予防を考えよう」										
機能	□個別課題解決 ■ネットワーク形成 □地域課題発見 ■地域づくり・資源開発 □政策の形成										
参加者	本人	家族 ・親族	民生児童 委員	ケアマネジャー	介護事業 者	医療関係 者	行政	その他	在宅介 護・地域 包括	基幹型地 域包括	合計
参加に○			○	○			○	○	○	○	
人数			1	2			1	5	5	2	16
事例概要	令和元年から在宅介護・地域包括支援センター(以下「在支・包括」とする)では、フレイル予防事業として行っていた「北町キャラバン」を令和6年度も予定している。昨年度実施した地域ケア会議でその内容について地域住民が参加したいと思うようなテーマや、内容について専門職を交えて話し合いを行った。今年度も9月から開始予定であるが、具体的な内容について地域住民や関係者が一緒になって話し合う。										
エリアの課題	① 地域の高齢者が元気に暮らし続けるために何が必要と感じているか、昨年度の地域ケア会議で当事者の意見を伺ったが再度確認を行い、そのことが叶えられるプログラムを考える。 ② ①のために、どのようなことが考えられるか参加者全員で、令和6年度以降のフレイル予防に対しての企画、運営を具体化する。										
検討結果	① 参加した方々から「運動」「他者とのつながり」が重要であるという発言があった。では「北町キャラバン」や地域で行われている様々な催事情報を、情報が伝わらない人にどのようにしたら届けられるか。情報が届いていても参加しない人が興味を持って参加するにはどのようなプログラムを考えたらいいか話題になって活発な意見交換が行われた。具体的なプログラムとしては、「ボッチャ」「メイク」「フットケア」「睡眠のはなし」等があげられた。 ② ①の課題についての意見交換で会議の時間が終了となり、②の課題まで進行できなかった。その後、「北町キャラバン」を開催するにあたり9月に参加者を募って行った。										
事例から見た地域の課題	① 吉祥寺北町は、総合体育館・コミュニティセンター・テンミリオンハウス・いきいきサロン等出かけていく場所は複数あるが、これらの情報が届いていないのか利用に至っていない人も大勢いる。 ② これまで地域の催事に参加していない人の参加意欲を上げるプログラムはないのか、「北町キャラバン」を通して考えていく。										
地域ケア会議後の状況	状況確認 令和6年12月 「北町キャラバン」を3回実施。プログラムは、軽体操・栄養講座・フットケアのはなし・ボッチャ。 開催日、会場、参加者数は以下の通り。 第1回 10月2・9・16日 吉祥寺ナーシングホーム 3回延べ参加者21人 第2回 11月6・13・20日 わくらす武蔵野 // 36人 第3回 12月11・18・25(予定)日 武蔵野中央図書館 // 19人(2回目まで)										

⑤ 桜堤ケアハウス在宅介護・地域包括支援センター

個別地域ケア会議 第1回

(桜堤ケアハウス在宅介護・地域包括支援センター)

開催日時	令和6年6月19日(水) 14:00~15:00										
会場	自宅										
テーマ	認知症状がある独居高齢者の支援。地域の見守り強化と認知症ケアを考察する。										
機能	<input checked="" type="checkbox"/> 個別課題解決 <input checked="" type="checkbox"/> ネットワーク形成 <input checked="" type="checkbox"/> 地域課題発見 <input checked="" type="checkbox"/> 地域づくり・資源開発 <input type="checkbox"/> 政策の形成										
参加者	本人	家族 ・親族	民生児童 委員	ケアマネジャー	介護事業 者	医療関係 者	行政	その他	在宅介 護・地域 包括	基幹型地 域包括	合計
参加に○	○	○	○	○	○				○		6
人数	1	1	1	1	1				1		
事例概要	<p>・83歳、女性。賃貸アパート1階に独居。認知症状があり、要介護2。介護保険サービスで通所リハビリテーションに週3回通所している。親族は他市に長女が在住。</p> <p>・精神的な波があり、穏やかな時は自立的に過ごしているが、不穏時は近隣を歩き回り帰り道がわからなくなる。不安が強く近隣住人に助けを求める等の混乱がみられる。</p>										
事例の課題	<p>① 認知症状の治療、服薬を含めた精神面の安定を図る。</p> <p>② 親族ならびに関係者間で、緊急時の連絡体制が共有できていない。</p>										
検討結果	<p>① 本人の生活状況、認知症状等の情報を集約して、不穏行動に対してはかかりつけ医が認知症専門科へ紹介し、内服薬を微調整した。家族の見守りで服薬できており、今後も家族が通院に必ず付き添い、周辺症状を含めた生活状況を主治医と共有しつつ、必要に応じて認知症専門科と連携した薬物療法を継続している。</p> <p>② 会議の場で緊急連絡体制、連絡の優先順位を確認。また、地区担当の民生委員との顔合わせ、本人が頻回に訪れる交番に本人の状況を理解してもらう等、地域の見守り強化を図った。</p>										
事例から見た地域の課題	<p>認知症などで支援が必要な方、困っている方に対して、どのように支援、見守れば良いか戸惑う地域住民もいる。日常に限らず、災害時を含めた地域での支え合いが醸成されていない。地域の行事やネットワークを通じ、相談機関である在宅介護・地域包括支援センターを広く周知していく必要がある。</p>										
地域ケア会議後の状況	<p>状況確認 令和6年10月</p> <p>会議での話し合いの中で、本人が秋から冬にかけて不穏になる傾向ということがわかったため、11月を目途に本人が普段利用している通所リハビリテーション併設の老人保健施設のショートステイを定期利用し、本人にとって安心できる環境を整えていくことで合意。10月に本人の状況確認とショートステイ利用の段取りを行う。</p>										

開催日時	令和6年9月25日(水) 13:30~14:30										
会場	市高齢者住宅 集会室										
テーマ	独居高齢者の災害時の支援体制について										
機能	<input checked="" type="checkbox"/> 個別課題解決 <input checked="" type="checkbox"/> ネットワーク形成 <input checked="" type="checkbox"/> 地域課題発見 <input type="checkbox"/> 地域づくり・資源開発 <input type="checkbox"/> 政策の形成										
参加者	本人	家族 ・親族	民生児童 委員	ケアマネジャー	介護事業 者	医療関係 者	行政	その他	在宅介 護・地域 包括	基幹型地 域包括	合計
参加に○	○		○	○			○	○	○		8
人数	1		1	1			1	1	3		
事例概要	<p>対象者は独居で、近隣に頼れる親族はいない。他県に離婚した妻・子どもはいるが、日頃の関りはない。令和5年12月に自宅内で転倒し、右大腿骨を骨折し手術を受けている。その後、キーパーソンとなる人がいないためリハビリ病院への転院が出来ず、ADLが低下した状態で在宅に戻ってきている。介護保険サービスでリハビリ等を行い、現在は歩行器を使用し近隣まで外出する程度までは回復している。</p>										
事例の課題	<p>① 頼れる親族がないため、発災時などの支援体制が構築されていない。 (要介護3に満たないため災害時要援護者登録できない)。</p> <p>② 発災時に限らず、日常的にフォーマル・インフォーマルの支援を受けているが、支援者同士が顔を合わせる機会がないため、お互いの役割等が見えづらい。</p>										
検討結果	<p>① 避難行動要支援者登録を行う。</p> <p>② 今回開催した個別地域ケア会議を活用し、支援者同士が顔合わせを行い、お互いの役割や普段の関りについて情報共有した。そのうえで、今後必要時に支援者同士で連絡が取り合える関係づくりを行うことができた。</p>										
事例から見た地域の課題	<p>・支援が必要な高齢者が多く、支援者となることが可能な地域住民が少ない。</p>										
地域ケア会議後の状況	<p>状況確認 令和7年3月予定</p>										

⑥ 武蔵野赤十字在宅介護・地域包括支援センター

エリア別地域ケア会議 第1回

(武蔵野赤十字在宅介護・地域包括支援センター)

開催日時	令和6年9月17日(火) 10:00~11:30										
会場	武蔵野プレイス 4階										
テーマ	ひとり暮らしでも安心して暮らしつづけられるまちをめざして ～高齢者の消費生活トラブルを防ぐ、境南町で高齢者を見守るためには～										
機能	□個別課題解決 ■ネットワーク形成 ■地域課題発見 ■地域づくり・資源開発 □政策の形成										
参加者	本人	家族 ・親族	民生児童 委員	ケアマネジャー	介護事業 者	医療関係 者	行政	その他	在宅介 護・地域 包括	基幹型地 域包括	合計
参加に○			○	○	○	○	○	○	○	○	
人数			6	5	1	1	4	30	3	3	53
事例概要	高齢者を狙う悪質商法の手口と対処法、高齢者の見守りネットワークの関係者と地域課題について学び、対応について考える。										
エリアの 課題	<p>① 境南町は消費者被害の犯罪件数が市内でも多い。なぜ多いのか? 「私だけはだまされない」と思っている高齢者。消費生活センター、警察から現状について報告していただく。</p> <p>② 地域ネットワーク(社協、防犯協会、母の会、赤十字奉仕団、コミュニティセンター、金融機関、民生委員)関係機関(福祉公社、主任ケアマネジャーほか)と課題の共有、体験談などグループワークによるディスカッション</p> <p>③ 令和6年度に地域で出来ることを考え実践する。(実施時期、活動主体、会場案)</p>										
検討結果	在宅介護・地域包括支援センター職員が高齢独居宅に訪問時、現場に遭遇。本人は契約したことを忘れ、恐怖と不安から支払いをしましおおうとしていた。「断れない、怖い、払おうとする本人」「そもそも近隣は気がつかなかったのか?」「業者は一度撤退するが再度来訪し、一部を支払うように迫る」どの段階で、私達是对応出来るのか考えさせられる場面であった。すぐには警察に届けられない、隠そうとする、実態は事後報告になる等、境南町の実態に地域で取り組む必要性を感じた事による。①講演会②グループワーク③アクションプランの合意と会議は進み結果、令和6年度内に「境南町：高齢者見守りアクションプラン」を実践。参加出来る人：講演会企画・参加の機会とし、参加出来ない人(健康理由・日中仕事している等)チラシ、広告作成に携わって戴き、町ぐるみの支え合いの仕組みとする。										
事例から 見えた地 域の課題	<p>以下3つのステップを実践する。</p> <p>①「気付き」変化に気づく。知り、学ぶ機会を作る。</p> <p>②「声かけ」気がついた人から、声かけをして未然に防ぐ</p> <p>③「つなぐ」被害にあったら、専門機関につなぐ。まだまだ、被害に合う人がいる境南町を自らの手で守っていく。</p>										
地域ケア	10月24日 花時計 参加者7名										

<p>会議後の 状況</p>	<p>12月13日 マンション理事会・高齢者 参加者15名  12月17日 コミュニティーセンター・一般住民 参加者18名  1月20日（予定） 境南地域社協・赤十字奉仕団  次回 令和7年5月頃 令和7年度地域ケア会議開催予定（取組成果の報告と次のプロジェクトについて）</p>
--------------------	--